

県内経済は、依然として厳しい状況にあるが、生産活動で回復に向けた動きが続いており、個人消費も明るさに拡がりが見られ、雇用情勢にも改善の兆しが窺われるなど、持ち直しの動きが見られる。

1. 平成22年7月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、猛暑効果から飲食料品、家庭用品等が大きく伸び、14ヵ月ぶりに前年を上回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から普通車、小型車、軽乗用車とも前年を上回り、合計では12ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、鉱工業生産指数（原指数）が7ヵ月連続で前年を上回るなど、回復に向けた動きが続いている。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額が2ヵ月ぶりに前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が3ヵ月ぶりに前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家、貸家が前年を下回り、合計では2ヵ月連続で前年を下回った。負債金額10百万円以上の倒産件数は前年と同じであったが、負債総額は前年を上回った。雇用情勢は、依然として厳しい状況にあるが、有効求人倍率（季節調整値）が3ヵ月連続で前月を上回るなど改善の兆しがみられる。

〔消費動向・明るさ拡がる〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、雇用・所得環境が依然厳しい中、猛暑効果により飲食料品、家庭用品、家電品等の販売が大きく伸び、全店舗ベースで188億76百万円（前年同月比+1.7%）と14ヵ月ぶりに前年を上回った。乗用車新車販売は、普通車、小型車、軽乗用車とも補助金や減税の効果から前年を上回る動きが続いており、合計では12ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比1.0%下降し、2ヵ月連続で前月を下回った。また前年同月比では1.6%下降し、18ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビが依然として好調を保っており、また猛暑効果からエアコンも大幅に伸ばした。一方、冷蔵庫、洗濯機、携帯電話等は前年並みとなったが、合計では前年を上回り推移した。ホームセンターは、節約志向が続く中で家庭用品、園芸が堅調、猛暑効果で家電品なども前年を上回り、植物、カーレジャー用品、ペット関連などが低調だったものの、合計では前年を上回り推移した。旅行取扱額は、コアとなる国内個人（家族層）が低調に推移したものの、海外が持ち直し合計では前年を上回った。

〔投資動向・横ばい〕

7月の公共工事前払保証取扱は、件数は3ヵ月連続で前年を下回ったが、請負金額は2ヵ月ぶりに前年を上回った。6月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数は3ヵ月ぶりに、床面積、工事費予定額は、4ヵ月ぶりにそれぞれ前年を下回った。7月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家が前年を下回り、合計では2ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動・回復に向けた動き〕

6月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、95.8（前月比△0.9%）となり、2ヵ月ぶりに前月を下回ったが、原指数は99.4（前年同月比+22.0%）となり、7ヵ月連続で前年を上回るなど回復に向けた動きを続けている。7月の大口電力販売量は、8ヵ月連続で前年を上回った。業種的には、非鉄金属や輸送機械で好調が続いている。

〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数は前年と同じであったが、負債総額は5億円以上の大型倒産が2件発生し、5ヵ月ぶりに前年を上回った。

〔金融動向・貸出金鈍化〕

7月末の預金残高は前年同月比+2.0%と41ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同△0.7%と9ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向・改善の兆し〕

有効求人倍率（季節調整値）は、0.45倍となり3ヵ月連続で前月を上回った。原数値でも0.42倍となり、4ヵ月連続で前年を上回った。新規求人倍率（季節調整値）は、0.75倍となり、前月と同じであった。原数値では0.83倍となり、6ヵ月連続で前年を上回った。

県内経済動向の概要

	項 目	前年同月比			前 月 比		
		22年5月	6 月	7 月	22年5月	6 月	7 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↗	↗	↘	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	→	→	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	→	↗	↗	→
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↘	↗	↗	↘
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	→	↗	→	→
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数 注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額 注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預 金	↗	↗	↗	→	→	↗
	貸 出 金	↗	↗	↗	↗	→	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘
 注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

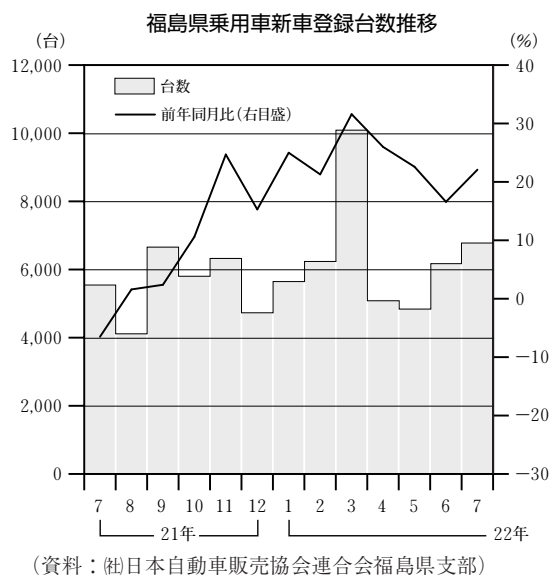
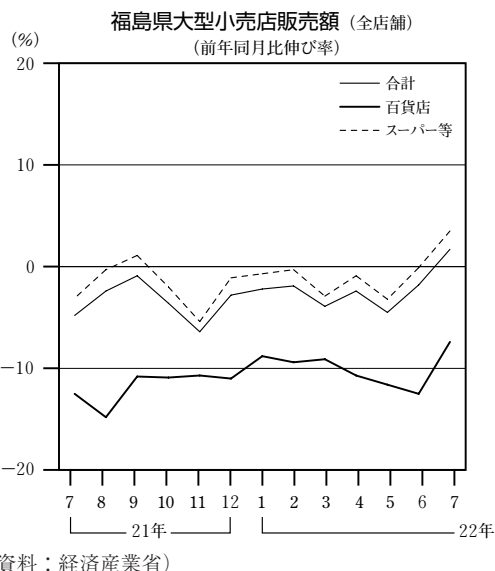
— 消費動向 —

大型小売店 7月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が依然厳しい中、猛暑効果により飲食料品、家庭用品、家電品等の販売が大きく伸び、衣料品が振るわなかったものの、全店舗ベースで188億76百万円（前年同月比+1.7%）と14ヵ月ぶりに前年を上回った。一方、既存店ベースでは同0.9%減と20ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に低調に推移したほか、飲食料品、身の回り品も振るわず、全店舗ベースで28億94百万円（同△7.4%）と、35ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでは前年同月比0.8%増となり、35ヵ月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、猛暑効果により主力の飲食料品の売上が前年を大きく上回ったほか、盛夏商材（アウトドア商品、レジャー用品、水着・浴衣等）も伸び、全店舗ベースでは159億82百万円（同+3.5%）と10ヵ月ぶりに前年を上回った。一方、既存店ベースでは同1.2%減と、14ヵ月連続で前年を下回った。

乗用車販売 7月の乗用車新車登録台数（ナン



バーベース)は、合計で6,826台(前年同月比+22.1%)となり、減税や補助金効果により12ヵ月連続で前年を上回った。車種別で見ると、普通車は2,116台(同+28.9%)と13ヵ月連続で前年を上回った。小型車は2,739台(同+27.2%)と12ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は1,971台(同+9.6%)と5ヵ月連続で前年を上回った。

7月の乗用車中古車販売台数(軽自動車は名義変更を含む)は、合計で8,671台(前年同月比△0.8%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると普通車は2,564台(同△0.1%)と3ヵ月連続で前年を下回った。小型車は3,259台(同△2.0%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。軽乗用車は2,848台(同±0.0%)と前年と同じであった。

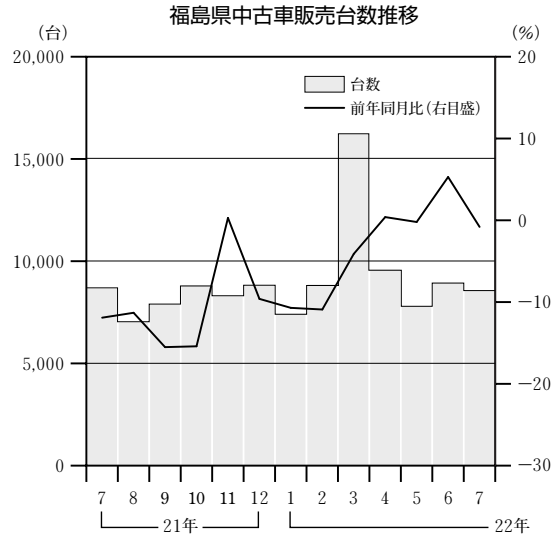
消費者物価指数 7月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)で見ると、98.8(前月比△1.0%)となり、2ヵ月連続で前月を下回った。前年同月比では1.6%下がり、18ヵ月連続で下降した。

費目別の指数動向をみると、「家具・家事用品」が88.9(前月比+0.9%)となり、ただ1費目前月比上昇した。一方、「被服及び履物」が97.9(同△5.4%)、「食料」が102.6(同△1.9)、「交通・通信」が98.4(同△0.5%)、「保健医療」が96.7(同△0.4%)、「住居」が98.1(同△0.3%)、「諸雑費」が101.2(同△0.1%)と6費目で前月比下降した。また、「水道・光熱」が106.8、「教養娯楽」が94.9、「教育」が82.9と、それぞれ前月と同じであった。

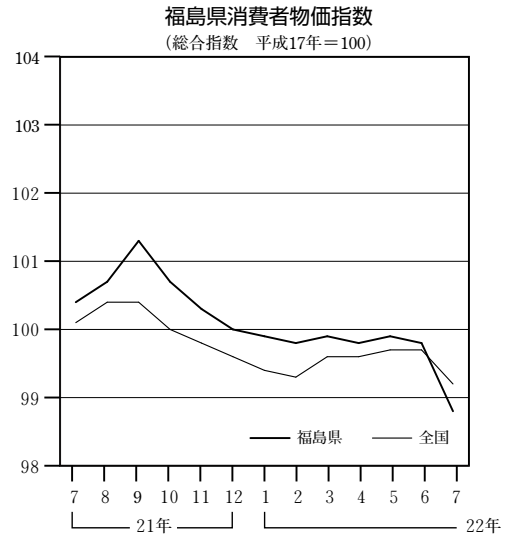
家電量販店 7月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビが依然として好調を保っており、パソコン、DVDレコーダーも前年を上回り推移した。また、猛暑効果からエアコンも大幅に伸ばした。一方、冷蔵庫、洗濯機、携帯電話等は前年並みとなり、合計では前年を上回り推移した。

ホームセンター 7月の売上は、節約志向が続く中で家庭用品、園芸が堅調、猛暑効果で家電品なども前年を上回り、植物、カーチェア用品、ペット関連などが低調だったものの、合計では前年を上回り推移した。

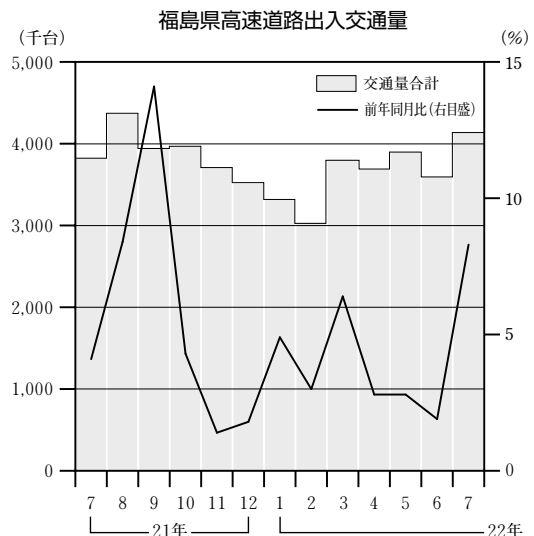
旅行 7月の旅行取扱額実績は、コアとなる国内個人(家族層)が低調に推移したものの、海外が



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

持ち直し合計では前年を上回った。

高速道路 7月の県内自動車道出入台数は、「ETC割引制度」の効果に海山への人出増も加わり、4,164,577台（前年同月比+8.3%）と16ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,364,569台（同+3.8%）と8ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は279,297台（同+5.9%）と5ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は569,314台（同+5.2%）と3ヵ月連続で前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は951,397台（同+24.9%）と16ヵ月連続で前年を上回った。

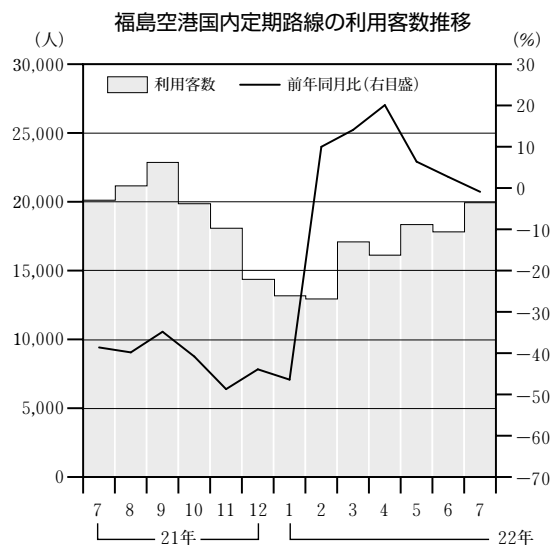
福島空港 7月の福島空港国内定期路線の利用状況は、20,109人（前年同月比△0.9%）と前年を下回った。路線別にみると、札幌便は9,934人（同△11.9%）、大阪便は10,175人（同+12.8%）となった。一方、国際定期路線の利用状況は、4,388人（同+2.9%）と前年を上回った。路線別にみるとソウル便は2,946人（同△2.0%）、上海便は1,442人（同+14.4%）となっている。

—— 投資動向 ——

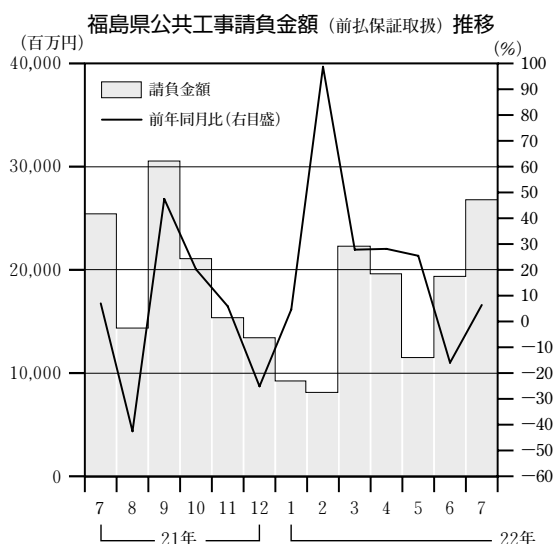
公共工事 7月の公共工事前払保証取扱は、件数が831件（前年同月比△5.4%）と3ヵ月連続で前年を下回った。請負金額は268億60百万円（同+5.5%）、保証金額は98億3百万円（同+2.3%）となり、それぞれ2ヵ月ぶりに前年を上回った。

なお、年度累計（2010年4月～7月）では、件数が前年同期比23件減少し、2,126件（前年同期比△1.1%）、請負金額が同40億39百万円増加し、776億71百万円（同+5.5%）、保証金額が15億67百万円増加し、283億64百万円（同+5.8%）となっている。

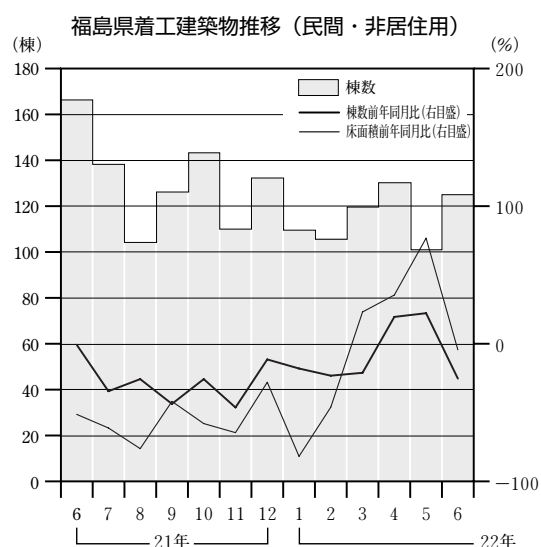
7月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比25億80百万円増加し、60億24百万円（同+75.0%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路株など）は同5億38百万円減少し、3億87百万円（同△58.2%）となった。県は同16億8百万円減少し、101億17百万円（同△13.7%）となった。市町村は同4億67百万円増加し、93億70百万円



（資料：福島県商工労働部空港交流課）



（資料：東日本建設業保証(株)）



（資料：国土交通省）

(同+5.2%)となった。

設備投資 6月の建築着工(民間・非居住用)は、棟数が126棟(前年同月比△24.6%)と3ヵ月ぶりに前年を下回った。床面積は44,534㎡(同△3.7%)、工事費予定額は63億60百万円(同△22.6%)となり、それぞれ4ヵ月ぶりに前年を下回った。

7月の建築物確認件数(計画変更を除く)は、741件(前年同月比△6.0%)と5ヵ月ぶりに前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物(一定規模以上の建築物が対象)は159件(同+6.7%)と2ヵ月連続で前年を上回った。4号建物(小規模な木造・非木造住宅などが対象)は582件(同△8.9%)と3ヵ月ぶりに前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は25件と前月比2件増加し、3ヵ月連続で前月を上回った。

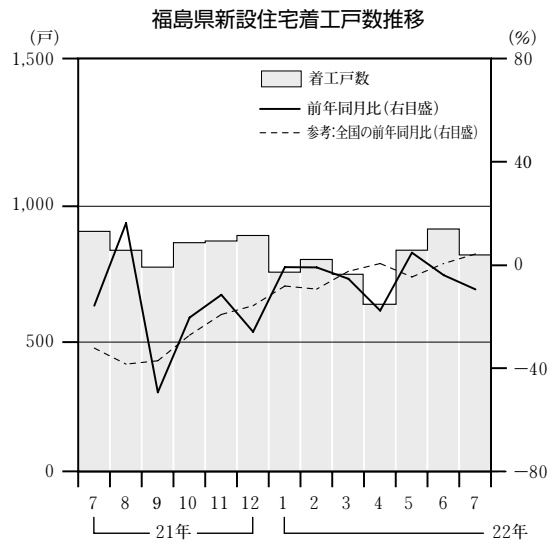
建築物着工の先行指標である7月の建築物申請件数は、750件(同△1.4%)と6ヵ月ぶりに前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は180件(同+20.0%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。4号建物は570件(同△6.7%)と5ヵ月ぶりに前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は24件と、前月比11件減少し、4ヵ月ぶりに前月を下回った。

住宅建設 7月の県内新設住宅着工戸数は、790戸(前年同月比△9.4%)と2ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は464戸(同△13.1%)と2ヵ月連続で前年を下回った。「貸家」は272戸(同△10.2%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。「分譲」は53戸(同+76.7%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。うちマンションの着工戸数は、2ヵ月連続でゼロであった。

生産活動

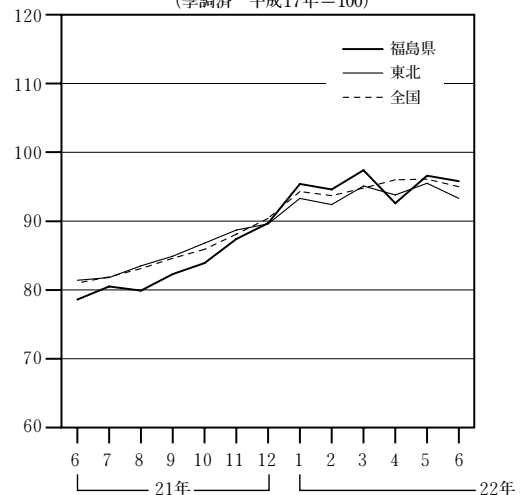
鉱工業生産指数 6月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると95.8(前月比△0.9%)となり、2ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数は99.4(前年同月比+22.0%)となり、7ヵ月連続で前年を上回った。

上昇および低下した主な業種別(季節調整済指数)では、繊維工業で53.4(前月比+9.7%)、鉄鋼業で87.8(同+8.9%)、木材・木製品工業で



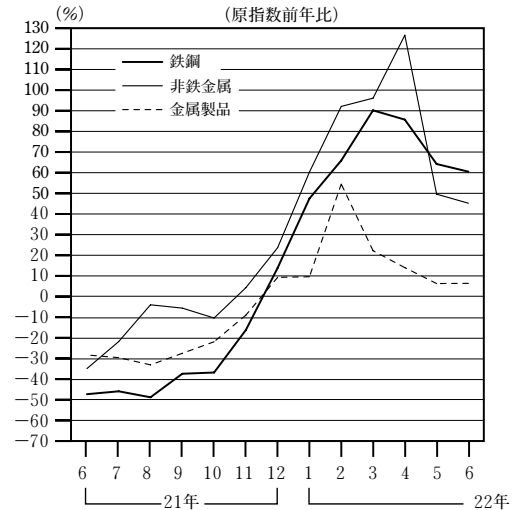
(資料：国土交通省)

福島県鉱工業生産指数(全国、東北との比較)
(季調整 平成17年=100)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移
(原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

70.2 (同+8.3%) など11業種で上昇した。一方、輸送機械工業で82.3 (同△10.8%)、精密機械工業で115.6 (同△8.5%)、窯業・土石製品工業77.2 (同△5.9%) など9業種で下降した。

化学 7月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は、好調が続いており、炭素繊維も持ち直しの動きが強まっている。酸化チタン(白色顔料、自動車用塗料向け)の生産やバリウム化合物(電子部品原料)の生産は、持ち直しの動きが続いている。

鉄鋼・金属 7月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材および自動車向け端子材とも、前年を上回り推移した。建機用鋳造品の生産は、新興国向けが好調、国内向けが低調だったものの、合計では前年を上回り推移した。車両用鋳造品は、新幹線、JR 在来線の更新需要に支えられ、堅調に推移した。船舶用バルブ部品および陸上プラント用バルブ部品の生産は、前年をやや上回り推移した。

輸送用機械 7月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが牽引し、前年を大きく上回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、国内販売の復調を受け、持ち直しの動きが続いている。

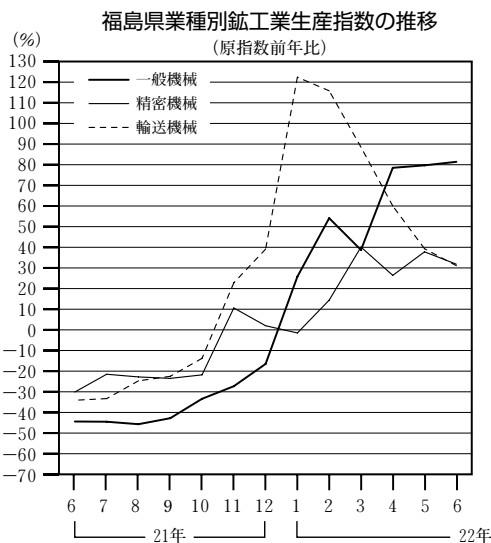
電気機械 7月の変圧器、自動車モーターの生産は堅調に推移し、配電盤、電熱炉の生産が振るわなかったものの、全体では前年並みの水準となった。

情報通信機械 7月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが低調、前年を下回り推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

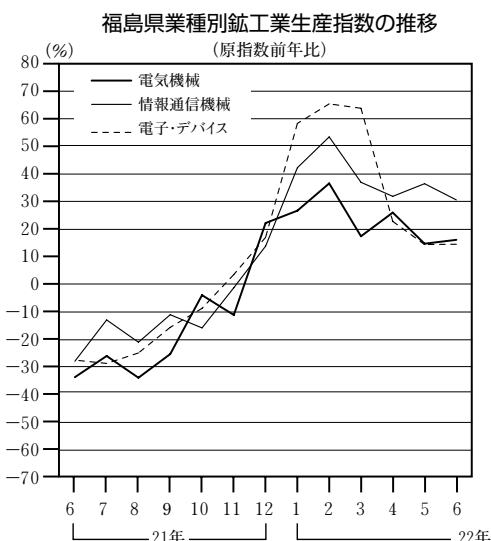
電子部品・デバイス 7月のLSI(大規模集積回路)の生産は、車載品、産業機器、パソコン・OA 向け等製品が好調に推移するなど、持ち直しの動きが続いている。

精密機械 7月の医療用内視鏡の生産は、北米向けを中心に堅調に推移し前年を上回った。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、持ち直しの動きが続いており、前年をやや上回り推移した。

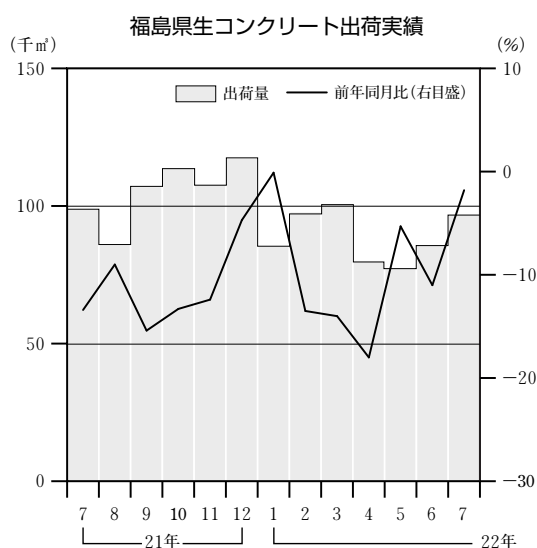
紙・紙加工品 7月のノーカーボン紙の生産は、前年並みで推移した。一方、感熱紙、インクジェット紙の生産は、前年をやや上回った。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

窯業・土石 7月の生コンクリート出荷量は、全体で97,466m³（前年同月比△1.8%）と16ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、県北地区で高速道路関連工事等、会津地区で国道改修工事等、白河地区で地方道改築工事等により、民需では、県北地区で輸送機械系の工場増設工事等、いわき地区で火発増設工事等、会津地区で病院新築工事等により増加した。

清酒 7月の清酒移出数量は、1,096kl（前年同月比△12.2%）と22ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が385kl（同△9.9%）と3ヵ月連続で前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、710kl（同△13.4%）と22ヵ月連続で前年を下回った。

合成繊維物 7月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年並みの水準で推移した。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年並みの水準で推移した。

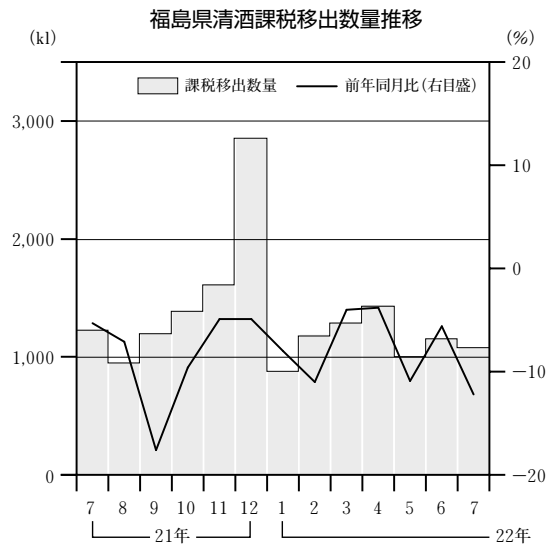
ニット 7月のニットの生産は、秋物生産が中心であるが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調に推移した。

大口電力 7月の大口電力販売量は、595百万kw/h（前年同月比+12.5%）と8ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で143百万kw/h（同+46.9%）、「電気機械」で110百万kw/h（前年同月比△12.8%）、「化学」で60百万kw/h（同+11.0%）、「輸送用機械」で63百万kw/h（同+25.9%）、「一般機械」で31百万kw/h（同+17.9%）、「紙・パルプ」で17百万kw/h（同+6.0%）となっており、特に、非鉄金属や輸送用機械で好調が続いている。

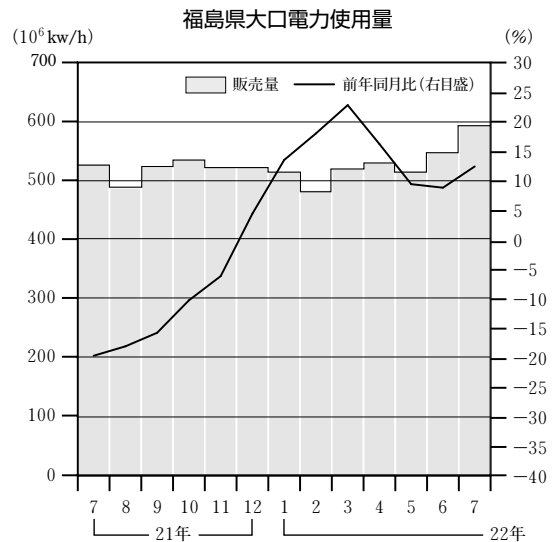
—— 企業倒産 ——

企業倒産 7月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が13件（前年同月比±0.0%）となり、前年と同じであった。負債総額は、45億4百万円（同+164.8%）となり、5ヵ月ぶりに前年を上回った。

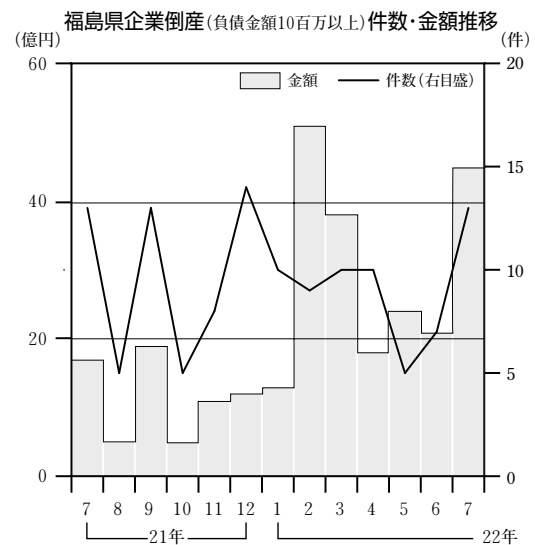
年間累計（2009年1月～7月）では、倒産件数



（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）



（資料：帝国データバンク福島支店）

が前年同期比18件減少し、64件（前年同期比△22.0%）、負債金額が同18億8百万円減少し、210億9百万円（同△7.9%）となっている。

倒産主因別内訳は、13件中10件が受注・販売不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、建設業が4件、不動産業が3件、小売業・サービス業が各2件、製造業・卸売業が各1件となった。また、地区別内訳は、県北（本宮市以北）が6件、県南（郡山市以南）が2件、会津が1件、浜通りが4件となった。

金融動向

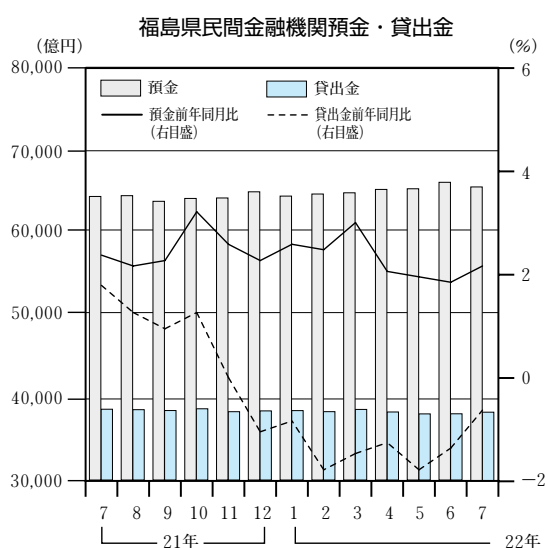
資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の7月末の預金残高は、6兆5,680億円（前年同月比+2.0%）と41ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,341億円（同△0.7%）と9ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 7月の保証承諾は、件数が1,045件（前年同月比△15.0%）、保証金額が93億55百万円（同△29.4%）となった。7月末日現在の保証債務残高は、件数が43,139件（同△0.7%）、金額が3,502億83百万円（同+0.4%）となった。また、7月中の代位弁済は、件数が75件（同△26.5%）、金額が5億50百万円（同△31.6%）となり、それぞれ3ヵ月連続で前年を下回った。

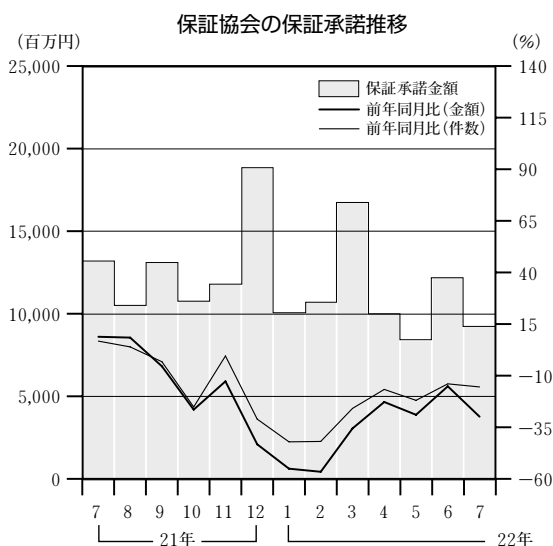
雇用動向

雇用動向 7月の新規求人数（原数値）は、8,809人（前年同月比+5.3%）と5ヵ月連続で前年を上回った。新規求職申込件数（原数値）は、10,555件（同△3.2%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。

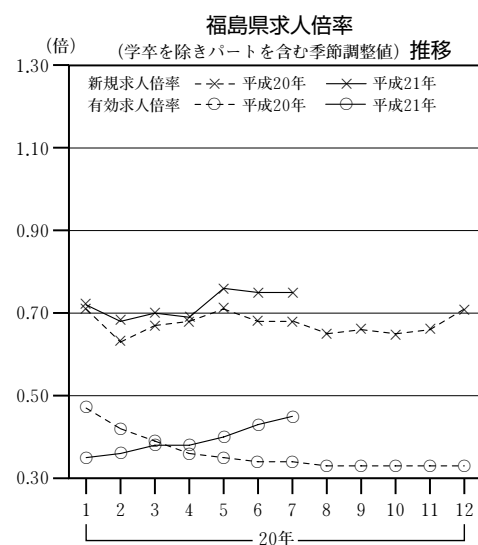
新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.75倍（前月比±0.0₁）と前月と同じであった。原数値は0.83倍（前年同月比+0.06₁）と6ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.45倍（前月比+0.02₁）となり、3ヵ月連続で前月を上回った。原数値は0.42倍（前年同月比+0.10₁）と4ヵ月連続で前年を上回った。



（資料：日本銀行福島支店）



（資料：福島県信用保証協会）



（資料：福島労働局職業安定部）